

# ゴール直前、ラストスパート!



6月3日、町内の各小学校で運動会が開催されました。みんなが待ち望んでいたかいあって、絶好の運動会日和。強い日差しを浴びながら、子どもたちは精いっぱい競いました。

また、たくさんのお父さん、お母さん方が応援していましたが、ビデオカメラを構える人の多さに、時代の流れを感じます。

(写真は亀小の運動会)

平成2年

6/15

No.453



## 広報

# かめだ

### おもな内容

- ▶ 亀田町が地価監視区域に (2ページ)
- ▶ 梅雨どきの交通事故に気をつけましょう (3ページ)
- ▶ 雄大な自然に囲まれて一町民ハイキングに158人が参加 (4ページ)
- ▶ ミニ・インフォメーション (4ページ)
- ▶ 社会教育だより (5ページ)
- ▶ 随想、俳句 (6ページ)

人口のうごき 30,407人(+27人)

※平成2年6月1日現在、住民登録人口(○)内は前月比

●男 14,812人(+15) ●女 15,595人(+12) ●世帯数 8,401(+2)







# 袋津木遣と燈籠

袋津三 中林 伊一郎



エーヤレー 木遣りかけますやあーれー

「ヤートコセーヨイヤラー」木遣りかけますかけ声たのむ心一つに力を合わせよーいとなー

「ソーランヤーライノアリアリアガドッコイヨイトコヨイトコナー」

この歌は伊夜日子社祭り燈籠押しの木遣音頭である。そもそも袋津木遣と燈籠神事の始まりは江戸末期と言われており、その時代の形に残る記録は少ない。今日まで百数十年の間、内容の変わりはあるが、その伝統燈籠神事が引き継がれてきたことは氏子の敬神の念の表われである。昭和三十五年頃までは、向、岡山、砂岡、池の山の各流れの形態で行われて来たもの。その後、中浦向「角力組」新明町「都町」が加わり、現代は六台の燈籠で毎年七月十四、十五日の二日間に亘り、その神事が斎行されている。まず準備は花造りから始まり、先太鼓燈籠に各流れごとに決められた梅に牡丹(一番組)、

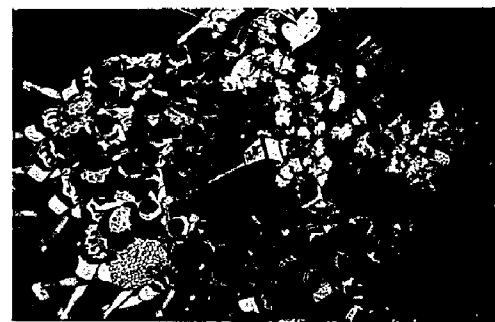
牡丹(二番組)、桜に牡丹(三番組)、牡丹(四番組)等々の飾り付けがみごとに出来あがると、早朝伊夜日子社に奉納し、十四日午後から先太鼓を先頭に区の燈籠奉納代表者「和服正装」並びに若衆関係者一同で袋津木遣音頭をとりながら、威勢よく宮のぼりをして一同参拝、御神酒を頂きそれぞれ燈籠を担ぎ定位まで帰る。夕食後八時頃より本番の燈籠押しが始まる。各燈籠の集合基点は円行寺前。先太鼓燈籠に御神燈のローソクがともされ、笛、太鼓の音が響き、いやが上にも若衆の気持が盛り上がり、興奮の渦の中に木遣りと共に燈籠さかしの行動がはじまる。

差し上げられ、その揺れ動く男性的な燈籠押しは、毎年見慣れておいても新たな感動を沸き起こし感無量である。いざ燈籠の押し合いは各組同じであるが、組の親方「指揮者」の話し合いにより実行に移る燈籠の間には、それぞれ先太鼓を外に引かせ燈籠の間隔を五、六メートルの位置よ

り気合いを込め、ソーレの合図で一合五十数人での両者が総力をあげて、満心を込めがーアンとぶつかりあうと、その組一丸となって押し合いがはじまる。ワッショイ、ワッショイ、ワッショイ、観衆はその物凄さに魅了される。昔はよく燈籠の上に燈籠をかぶせ、更にその上に数十人の若衆が上がり、ワッショイ、ワッショイの掛け声で数十分下の燈籠が壊れるまで揉み合い、喧嘩がはじまる。その時にはお互い酒も手伝い騎虎の勢いで手のつけられない状態になるが、機を見て決められた中止の合図の番調が鳴り渡るとお互いに燈籠を引き終結する。このように何回と繰り返し、昔は夜のしらじら明けのまで押し合い続けたものであった。現在は警察の指導を受けて、各区より三名ずつ出て燈籠神事管理委員会が設置され、その監督の下に整然と行事が行われ、夜の十一時頃までには全部終了している。

本年は亀田町制施行百周年行事として種々の催しが計画

されているが、その一つとしてふるさと祭の中の郷土芸能の部に袋津の燈籠押しも参加することになっている。数台の燈籠が並んで初めて亀田の本町を流すことの壮観さは、いやが上にも町民総参加の百周年記念行事を盛り上げることに、めでたき極みである。伊夜日子社は越後一の宮、彦神社の分社であり、天香語山命をお祀りしている。国の重要無形民俗文化財に指定され、毎年七月二十五日に盛大に行われている弥彦大祭の燈籠押しには袋津の燈籠も参加し、木遣り音頭の上手いこと若衆の威勢のよいことで、観衆の喝采をまくしているところである。袋津は亀田町の東部に位置し、世帯一、五〇〇を数える大部落である。鎮守伊夜日子社のこの歴史ある伝統行事が永久に子々孫々まで継承されることをこいねがうものである。



## 俳句コーナー

綜合句會

新茶古茶二つの壺や老愉し  
きらめくや五月の空といふものは  
紫の花の涼しく活けてあり  
かなへびの出で踊子草踊る  
珈琲にくつろぐロビー夏めきし  
更衣少し太りしかと思ふ  
戦死せし兄は草笛上手かりし  
調子ぬけて草笛のつながらず  
草笛をききし小諸の旅のこと  
万緑やことりと開きし淵口  
夏蝶や寛の水を高く翔ぶ

## レインボー俳句クラブ

アカシヤの咲きて旅順を恋う男  
街薄暑とんがり屋根の珈琲館  
座布団にみどり児眠る薄暑かな  
夏足袋をびしょっとはいて舞ひ初む  
低温の子報青田に水張れと  
退院す薄暑の日ざし眩しげに  
見えて居て歩けば遠き村薄暑  
湯上りの嬰兒抱けば菖蒲の香  
新緑の風ゆたかなる時茶屋  
わらび山腹にしみ入る清水かな  
落慶に集ふ稚児らに若葉風  
木漏れ日に憩ふ一服薄暑かな  
片付けし炬燵恋しい雨薄暑  
尺蠖の歩道這いゆく薄暑かな  
訪ふことの久しき里の薄暑かな  
大部屋に移りし友に薄暑来る  
ハンカチを買ふ乙女らや街薄暑  
長袖も半袖も居て薄暑かな  
抜歯待つ背のふるえる薄暑かな

- |    |     |    |    |    |     |    |     |    |    |    |    |     |     |    |     |    |    |    |    |    |    |
|----|-----|----|----|----|-----|----|-----|----|----|----|----|-----|-----|----|-----|----|----|----|----|----|----|
| 大山 | 清治郎 | 高橋 | 向山 | 入沢 | あき子 | 堀内 | 麻子  | 熊倉 | 静子 | 高橋 | 桐子 | 五十嵐 | みつ子 | 田中 | 美津枝 | 佐藤 | 妙子 | 田村 | 和子 | 村尾 | ひな |
| 高橋 | 向山  | 高橋 | 武雲 | 高橋 | 八恵  | 小嶋 | 健太郎 | 小嶋 | 三恵 | 皆川 | 潤作 | 間宮  | 初江  | 荒井 | 十三  | 荒井 | 十三 | 皆川 | 潤作 | 間宮 | 初江 |
| 高橋 | 向山  | 高橋 | 武雲 | 高橋 | 八恵  | 小嶋 | 健太郎 | 小嶋 | 三恵 | 皆川 | 潤作 | 間宮  | 初江  | 荒井 | 十三  | 荒井 | 十三 | 皆川 | 潤作 | 間宮 | 初江 |
| 高橋 | 向山  | 高橋 | 武雲 | 高橋 | 八恵  | 小嶋 | 健太郎 | 小嶋 | 三恵 | 皆川 | 潤作 | 間宮  | 初江  | 荒井 | 十三  | 荒井 | 十三 | 皆川 | 潤作 | 間宮 | 初江 |